

第3期清水町子ども・子育て支援事業計画について

提出されて意見の概要	意見に対する町の考え方
この度、これからの清水町の子育てへの計画があると知り自分が子育てで悩んでいたことも振り返りながら今だからわかった事もあるので意見をお伝えしようと思いました。 57 ページにあるようにそれぞれの役割があります。 ②に家庭の役割、とありますが、もちろん大事に責任を持って子育てをしてきたつもりでしたがどんな事を大事にして子育てをしたら良いのだろう、と模索する日々もありました。 たくさんの資料をすべて熟読したわけではないので、的外れだったり失礼なこともあるかもしれませんが子どもたちに提供したいことは何だろう？と考えた時に、自分が大切にされているという環境かなと考えます。 18 歳までの医療費無償化も悪いことではないですが、そもそも医療にかからなくても良い整った身体をつくってあげる事ができたらと考えます。 そのためには安全な食べ物や栄養が整った食事が提供されていることと思います。 海外では禁止になっているトランス脂肪酸の入ったマーガリンも日本では多く使われています。 農産物や養殖の魚にも農薬や化学肥料、抗生物質も多く使われていたりします。 完全に避ける事はできませんが、何を選んだらよいかとまずは知識も必要かなと思います。 特に輸入の小麦粉はとても良くなく腸に穴を開ける成分があるそうです。 そのような知識も大事かと思いますが、今の身体の状態はどうなのかと調べる素晴らしい機械があります。とても微量な成分、身体の中のミネラルを測るオリゴスキャンといいます。 身体の中のミネラルが整っているか、脳への影響もある有害な重金属がないかなど血液を採取することもなく2歳から調べられます。 ささっと手のひらにあてた機械のデータが瞬時にルクセンブルクにとんでいき戻って	こども園の食事につきましては、これまでも集団給食のできる範囲で食材の安全に配慮しより良い食事を提供できるよう努めてまいりました。子どもの学び場についても、ご意見を参考にさせていただき、より安全、安心な給食の提供し努めます。 子どもに係る政策につきましては、手厚く推進しているところです。 限られた財源のなかで、バランスを変えて他の施策に充てることは良い考えであり重要であると考えますが、進めている施策の縮小については慎重な判断が必要になります。 いただいたご意見につきましては、担当課とも相談し子育て支援の検討を行う上で今後の参考にさせていただきます。

きたデータが印刷できるというものです。

日本人のほぼ 6～7 割の方が亜鉛不足だそうです。亜鉛が不足していると有害金属の排出もできません。アトピーや喘息の子どもたちも多いと聞きますが、お薬で症状を抑える事をしなくてもミネラルの整ったお塩をしっかり取り入れることで改善された例も多く聞いています。

まずは身体の状態がわかれば、対処の方法の選択もできるので、高価な機械ですがこのような検査が公の機関でできて、対処をすることができたら、医療費の負担が続くより予算的にもずっと良いのでは、と考えます。

これは大人も同じで、アルミニウムが多いと認知症の可能性が高くなります、などもわかるのでなからへの対応ではなく、未然に防ぐことにも繋がるのかと思います。

子どもたちへの給食も良いお醤油やお味噌が使われていると聞きました。

更に良い食材を、となると予算もかかりますが、例えば、医療費無償を半分にして、その分更に給食の内容を良くします。としたら賛成する方も多いのではないのでしょうか。そして経済的な負担を感じている方も多いとのアンケート結果ですが学校、学校以外でも少年団での年代を超えた関りや専門的な習い事など子どもたちがどんな事でも選んでやってみたいという環境を提供することができたら、とても素晴らしいと思います。今は、お子さん一人に対しての金額もありますが、町外に流れてしまうことも多いと思います。

例えばそれをハーモニーカードに何か加えて、子育ての人は 1 割引になります、などそうすると町内でなるべく買い物をしようかと繋がったり、貴重な町内でお店を続けてくれる方の経営にも役に立ったり。

また、子供たちの習い事などに使える子育てクーポンとか、無償で子どもたちに指導してくださっている少年団の先生方への報酬もあって良いのでは、とも考えます。

子どもたちが保育所の頃、子どもたちにはしっかりいろいろなことを体験させてあげると良いですよ

と当時の園長先生が伝えてくださいました。

公の機関で提供することには限りはあると思いますが、子供たちにいろんな可能性と安心した環境が提供できると素晴らしいと思います。

提出されて意見の概要	意見に対する町の考え方
こども園や学童を利用する保護者にとっての支援が充実しておりアンケート結果を参考にしてさらにブラッシュアップした取り組みになっていくことを望みます。 一方でこども園や学童に預けられる子どもの人権においては、子どもたちの気持ちにも寄り添った事業計画になると更に良いと思う。子どもはお母さんといたいと願っているとするればお母さんと一緒にいれるように経済的な支援をするなどあってもよいとおもう。 保護者が仕事優先である場合は良いが、子ども自分である程度の年齢まで保育したいが経済的に、お金のために仕方なく子どもを預けなければならない場合があるとするれば、そうしなくても支援できる制度があるととてもよいとおとともう。	現在、こども家庭庁にて、子どもに関する施策等が進められており、随時情報を確認、取り入れながら子育てに関する事業の推進に努めているところ。 いただいたご意見のような保護者の考えや、家庭環境に寄り添ったいろいろな制度が、それぞれ整備されていると良いと思います。町だけで取り組むためには、財政的なこと、預かる環境をより多く整える方向性の国の方策等もあり、実現に向けて動くのも難しい状況ですが、今後もより良い子育て支援に努めます。